

# 2023年度 ピオーネ雑司が谷保育園 自己評価表

記入方法：よくできている:A ほぼできている:B 努力が必要:C

## 1.保育の理念・保育観

	内容	A	B	C
1	すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重している。	9	3	
2	児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮し、子どもの生活と健全な発達を保障することが保育園の重要な使命だと理解している。	9	3	
3	日頃から「保育所保育指針」をよく読み、その理念を理解した上で、保育内容や保育方法を考える時のガイドラインとしている。	6	5	1
4	あなたの保育が子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識している。	11	1	
5	保育所保育指針は養護と教育が一体となっていて行われていることを意識し保育している。	10	2	
6	今日の保育園には在園児の保育だけでなく、地域の子育て支援をする社会的役割があると認識している。	9	3	
7	子どもに文化や生活習慣、考え方が多様であることを知らせ、それらを尊重する心を育てるよう努力している。	10	2	
8	子どもの性差や個人差にも留意しながら、固定的な性別役割分業意識を植え付けることのないよう配慮している。	11	1	
9	日頃から子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱める等精神的苦痛を与えることがないようにしている。	12		
10	個人情報の保護に配慮し、子どもやその家庭についての秘密を正当な理由なく漏らすことがないようにしている。	12		
11	様々な特徴（障がい）を持つ子も持たない子も、一人ひとりのありのままの姿を受けとめ、地域の全ての子どもが健やかに成長することを願って保育している。	12		
12	育児の考え方について、保護者と相違があるとき、先ず相手の気持ちを受けとめ、対話し、保護者の立場や考え方を理解するよう努めている。	10	2	
13	家庭状況は多様だという考えの上で、今その子に何が必要か見極め、それぞれにとって適切な援助をしている。	7	4	1
14	子どもが夢中にあそんでいるときは、その時の保育の内容や流れに変更が生じてても、危険のない限りその活動を見守るなど柔軟性を持つようにしている。	8	4	
15	子どもと一緒に思い切り体を動かしあそぶことの重要性を理解し楽しんでいる。	10	2	
16	1人ひとりの子どもに目が届いていたか振り返り、これからの保育の課題を見つけることができる。	8	4	

## 2.保育の内容

### 1) 保育計画・指導計画

1	指導計画を作成するとき、「保育所保育指針」を読み参考にしている。	4	6	2
2	保育園の全体の計画等を基に、指導計画を作成している。	3	6	3
3	月・週案等には教育的側面だけでなく、養護的側面もしっかり盛り込んでいる。	6	6	
4	指導計画を作成するとき、地域の実態や保護者の意向・希望などを考慮している。	4	6	2
5	子ども一人ひとりの発達や興味の対象の実態を把握して月・週・日案を作成している。	7	4	1
6	複数担任の場合、よく話し合ってお互いの考えを十分に理解し、計画を立てている。	7	3	2
7	園の理念や方針・自分の保育計画のねらいや内容を保護者に分かるように説明出来る。	5	6	1
8	季節感や日本の伝統行事等を計画の中に取り入れている。	10	2	
9	指導計画が実際の子どもの姿・興味・関心に合っていたかという視点から自分の保育の振り返りを行っている。	7	5	
10	月1回以上、指導計画の振り返りを行い、その結果を次月の指導計画に生かしている。	9	3	

## 2)乳児保育

1	子どもの個々の出生時の状況、その後の発育・発達など、生育歴を細かに把握すると共に、保護者の状況などの背景も理解している。	7	4	1
2	哺乳瓶の消毒・調乳・沐浴の仕方などの基本的な事柄や、個々の健康状態など、随時職員間で確認している。	6	6	
3	授乳は、その子が欲しがるときに優しく抱いて微笑みかけゆったりと飲ませている。	7	3	
4	離乳食は家庭と連携して、一人ひとりの育ちの様子や、その日の体調に合わせて工夫している。	6	4	
5	初めての食品を食べたときは、皮膚や便性など異常がないか観察している。	8	4	
6	おむつ交換は「きもちいいね」と優しく声を掛けたりマッサージして、排便の回数、便性を把握し臀部を清拭している。	12		
7	赤ちゃんの目の動き、泣き方、しぐさ、片言をメッセージとして受けとめ、微笑み、要求に応じる言葉を優しく返している。	9	3	
8	子どもを外気に触れさせ、適度な戸外遊びをして、健康増進をはかるようにしている。	9	3	
9	喃語にゆっくりと応えたり優しく話掛けたりして、発語の意欲を育てている。	10	2	
10	絵本を見ながらその子の指さすものに答えたり、優しい言葉を添えて、自らもそのやり取りを楽しむことができる。	10	2	
11	自身がどんな状況にあるときも、赤ちゃんの笑顔やしぐさを可愛いと感ずる。	12		
12	自分の服装の色合い、髪型、爪などの清潔や、室内の清潔にも配慮している。	9	3	
13	乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせ、睡眠チェックを欠かさないようにする。	12		
14	個々の生活リズムや欲求、その日の体調を把握した上で、睡眠時間を調節したり柔軟に対応する。	11	1	
15	連絡帳などを活用し、園以外での子どもの様子も把握するよう努めている。	10	2	

## 3) 3歳未満児保育（1・2歳児保育）

1	「できない、やって」と甘えるときは、その都度その子の気持ちを受けとめ、個々の発達に応じて要求を満たす援助をしている。	11	1	
2	子どもの「これな～に、どうして？」などの繰返しの質問に、忙しいときでも出来るだけその都度答えようとしている。	10	2	
3	探索活動が十分に行えるよう、安全に配慮し環境を整えた上で、子どもが要求する行動を容認することが出来る。	9	3	
4	着替えや食事の時は、その子に応じた手助けや言葉かけをしながら、時間を要しても自分からしようとする気持ちを大切にしている。	11	1	
5	こぼしながらも子どもが自分で食べる意欲を育てるために、楽しい雰囲気の中で食事が出来ることを大切にしている。	10	2	
6	玩具の取り合いなどでぶつかり合うとき、危険のないよう配慮しつつ、子どもの発達の程度や心の動きを考えながら、暫く見守っている。	10	2	
7	好奇心や興味を引き起こす教材や素材、場を用意する配慮をしている。	6	6	
8	散歩のとき、保育者も一緒に楽しみながら、花や葉、虫や動物などを見つけたらして、子どもと共に自然や動物への興味・関心を持つことを大切にしている。	11	1	
9	子どもと会話するとき、その子の目線に合わせて話をゆっくり聞いて、子どもの話したい気持ちや伝わった喜びを共感している。	10	1	1
10	自分の表情に配慮し、子どもに分かるようにゆっくり、はっきり、穏やかに具体的に短い言葉で語り掛けている。	9	2	1
11	「絵本読んで」「遊んで」と言われたとき、場面に応じて「待って」といった場合も、理由を伝えその子の気持ちに応じている。	11	1	
12	歌を歌ったり、リズムに乗り体を動かすとき、自分の歌や動きを子どもに合わせて一緒に楽しむ。	10	2	
13	我儘で「嫌だ」という子どもの内面に配慮しながら、その子の気持ちを肯定的な方向に向けるようにしている。	8	4	
14	自分の思い通りにならず怒ったり泣いたりする子どもに対し丁寧に話して聞かせたり、気持ちを切り替える時間をとり、ゆったりと待つことが出来る。	7	4	1

#### 4)3歳以上児保育

##### ア.基礎的事項

1	子どもが緊張したり不安を感じたときには温かく受けとめ、優しく接するなど家庭的な雰囲気づくりに心がけている。	10	1	1
2	子どもが安心し自分の気持ちを伝えられるよう、常に心を開き信頼関係をつくる努力をしている。	11	1	
3	個々の背景や保護者の状況を理解し受けとめ、安心して甘えられるよう、その子の気持ちに寄り添い、支えている。	9	3	
4	子どもが自己表現できるよう、そのときの要求や気持ちを読み取り、どの子どもも自分が愛されていると実感できるように接している。	10	2	
5	個々の必要に応じ、心身共にゆとりとくつろげる空間と時間を作り出す努力をしている。	7	5	
6	少しでも普段と違う様子の子どものに気付いたら、自分から体調不良を訴えられるよう優しく問いかけている。	10	2	
7	日常生活でのしぐさをよく観察し、行動や身体の異常などの早期発見に努めている。	6	6	
8	季節感を味わえる環境を整え、和やかにくつろいで過ごせる環境づくりを心がけている。	5	6	1

##### イ.健康

1	「食育」の考え方を大切にし、食事を「楽しく・美味しく」味わえるよう工夫している。	8	4	
2	子どもが配膳の手伝いなど、食事に興味を持てるような機会を作っている。	6	5	
3	“食育活動”の一環として調理の様子を見たり、栄養士のお話を聞いたりして、食材や食事に興味を持つようにしている。	6	5	
4	天候や活動の内容・程度に応じ、衣服の着脱、調節を子ども自らが考えられるよう言葉をかけている。	7	5	
5	トイレに行くことを急かせたり強制せず、一人ひとりの排泄の欲求に合わせている。	9	3	
6	おもらししたり、排泄の後始末が上手くいかなくても、さりげなく対応し、自分で出来るよう個別の対応をしている。	8	5	
7	子どもたちが快い疲労感を感じ昼寝出来るよう、十分な遊びの場や時間を設けている。	7	4	
8	昼寝の時間以外でも、一人ひとりの状況に応じ、休息をとるようにしている。	7	3	2
9	清潔でいることは気持ち良いと子どもが知る為に、水道、トイレなどをいつもきれいにしている。	9	3	
10	色々な楽しさを味わう為、散歩など戸外に出かける機会を積極的にとりいれている。	10	2	

##### ウ.人間関係

1	「保育園や先生が好き」といった幸福感を味わえるために、子どもが充実できる活動や場を日頃から用意している。	6	5	1
2	子どもが嬉しい時、悲しい時また困ったり戸惑ったりした時、それを伝えたい存在となっている。	5	6	1
3	自己表現する力や相手の話が聞けるよう、それぞれの子どもの立場や気持ちを汲み取った仲立ちをしている。	6	5	1
4	個々の発達を理解し働きかけながら、子どもがルールの大切さに気づき、それを守ろうとする態度を養うよう努めている。	7	5	
5	遊びの中で子どもたち自ら試行錯誤し、つくっていくルールを大切に見守っている。	8	4	
6	けんかやぶつかり合いを、相手を知る機会、社会性が育つ過程と受けとめ、その育ちを見守っている。	9	3	
7	個々の興味や発達に応じた取組をして一緒に関わり合う喜びを味わう場や機会を用意している。	8	4	
8	タテ割保育などの時、発達や生活経験の違いに着目し、それぞれの子どもがもっている課題を見出すことができる。	7	4	1

##### エ.環境

1	今日咲いた花、飛んできた鳥や虫など、それぞれの季節ならではの子どもの感動を、自身のものとして受けとめている。	10	2	
2	散歩で拾った木の葉、木の実など、色々な物を比べたり調べて、自然の不思議さや面白さを子どもたちと共感し、物の性質や数・量などに対する興味を育てている。	6	6	
3	花が咲き葉が落ちるなど、自然の営みについて、子どもの疑問にわかり答えている。	5	7	

4	子どもの質問や疑問に全て答えたり、直ぐに回答せず、実物を見せたり図鑑で調べたりなど、活動として繋げている。	6	5	1
5	栽培・飼育など、身近な自然から動植物の成長の過程を子どもと共に楽しんでいる。	5	5	2
6	最近の社会の出来事を理解した上で、子どもの興味・関心に沿うかたちで分かり易く説明している。	5	6	1
7	地域の公共施設やそこで働く人々と子どもの生活との関わりを正しく伝えている。	3	9	
8	子どもが自由に取り出して遊べるよう、玩具・用具などの構成を整え、その量や補充を工夫している。	6	6	

## オ.言葉

1	言葉はコミュニケーション、思考・行動の為に不可欠であると認識し、幼児期に言葉を豊かに身に付けられるよう工夫している。	6	6	
2	子どもたちが生活や遊びを通して、生きた言葉を多く獲得できるよう工夫している。	6	5	
3	日頃、声の大きさに気を付け、分かり易い子どもへの心を込めた温かな言葉使いでゆっくり話している。	8	3	
4	登園時、いつも爽やかに挨拶をし、その時々に必要な言葉を掛けている。	10	1	
5	読み聞かせの際、文章の美しさや言葉のリズムの面白さに気を配り、その物語性や伝統の素晴らしさを伝えている。(絵本・童話)	7	5	
6	紙芝居や絵本の読み聞かせで、子どもが感動したり想像力を膨らませるように、自分もその内容を楽しんでいる。	9	3	
7	子どもが話しかけて来たとき、その内容の結論が分かっているにもかかわらず、ゆっくり聞いて話したい気持ちを満たし、言葉で伝え合う場を大切にしている。	11	1	
8	子どもの目を優しく見つめながら気持ちを合わせ、言葉だけでなく目の動き、表情、体全体のしぐさにも注意を払っている。	8	4	
9	子どもと一緒に花を目にしたときなど、「きれいね」だけでなく、もっと多様な言葉でその感動を表現している。	8	3	1
10	指示・命令や禁止語を出来るだけ使わないようにしている。	5	6	1
11	子どもに問い詰めたり、押し付けず、子ども自ら考えるきっかけになるよう分かり易い言葉使いをしている。	9	2	1

## カ.表現

1	見たこと、感じたものに対し、言葉・絵・造形・からだ・音などその子が最も好きな方法で表現することを大事にしている。	7	5	
2	子どもが感じたまま作品や動き等で表現することを汲み取るようにしている。	7	5	
3	絵などの作品に、子どもの喜びや悲しみ驚きなどの感動を読み取っている。	5	7	
4	活動の場面に応じ、リズムやボリューム等に配慮して子どもの耳に快く響く音を提供している。	6	5	1
5	リズム楽器を活用し、子どもが音色やリズムの楽しさを満喫できるようにしている。	6	5	1
6	子どもが自分の作品が大切にされていると感じられるよう、展示の仕方を工夫している。	5	7	
7	何時でも直ぐに使えるように、クレヨン・絵具・粘土・紙等を用意している。	6	4	2
8	ハサミなど危険を伴う道具は、正しい使い方や後片付けの仕方を日常的に伝えている。	5	5	2
9	子どもたちの遊びに、身体を使った様々な表現あそびを多く取り入れている。	6	4	2

## 5) 特別な配慮や支援を必要とする子ども(障がい児)の保育

1	保育園は障がいをもつ子どもそうでない子ども「共生」「共育」の観点から、当たり前のこととして保育するという考え方に共感している。	12		
2	障がい児が入園した時、安全管理や個別的対応等、その子を受け入れる為の保育を、積極的に進めて行こうと考える。	11	1	
3	障がい児について素朴な疑問を投げかける子に対し、必要に応じて障がいの性質や行動の困難さなど、丁寧に説明している。	8	4	
4	障がい児もそうでない子ども互いのよさを感じ取り、楽しく交流できる雰囲気作りをしている。	9	3	
5	障がい児の世話をし過ぎる子どもや、逆に無関心な子どもに配慮を心がけている。	6	6	
6	障がい児により適切な保育をする為に、様々な専門機関と連携している。	7	4	1

7	障がい児の保護者が様々な苦しみや悩みを抱えていることを、触れ合う中で感じることもある。	6	6	
8	日常的に障がい児の保護者との話し合いの場を設け、不安・焦り等悩みを抱えている保護者の気持ちの援助を心がけている。	5	6	1
9	就学に向け相談する障がい児の保護者に対し、保護者が自分で方向を決めていけるよう相談に応じたり情報提供をしている。	4	5	3
10	障がい児保育をより豊かにする為に、子どもたちにふさわしい環境・物的環境（玩具等）を整えるよう努力している。	4	6	2

## 6) 行事

1	行事を保育に取り入れる時それが子どもの健やかな育ちに繋がる意味を持つことを意識している。	9	3	
2	皆で楽しむと共に、一人ひとりが十分に自分の力を発揮できるような行事となっている。	6	6	
3	子ども達にとってその季節や時期にしか味わえない有意義な体験となるよう行事を工夫している。	7	4	1
4	期待をもって行事に参加出来るよう、年間計画の段階から子どもの主体性を尊重する保育場面を用意している。	6	4	2
5	行事への参加を嫌がる子どもには、その気持ちを汲み取り、行事の中でその子が活動出来る場面を用意している。	7	5	
6	保護者が参加する行事の時は、保護者の評価にあまりとらわれず、日常の子どものありのままを見てもらおう気持ちのゆとりを持っている。	7	5	
7	行事が子どもの生活や遊びから発展していくよう日常の保育の積み重ねとなるよう心がけている。	7	4	1
8	保護者が参加する行事は、園だより等で事前にその趣旨を説明し、理解や協力を要請している。	5	7	
9	子どもも保護者も期待感を持つ行事には自らも喜んで余裕をもって参加できている。	6	5	1

## 7) 延長保育

1	長時間にわたる保育を受ける子どもには、身体を休めるスペースを作るなど家庭的雰囲気配慮している。	8	3	1
2	次々迎えがくる中、「ママ来ない」のつぶやきに対し、その子の気持ちを受け止め、安定した気持ちで待つことが出来るよう配慮している。	9	3	
3	1人ひとりが好きな遊びが出来るよう、配慮している。	11	1	
4	担任でなくても、園での様子が十分保護者に伝わるよう、連絡ノートやお便りを工夫している。	6	6	
5	とりわけ異年齢の子ども同士が遊べるよう工夫している。	5	7	

## 3.保健活動・安全管理

1	身体測定や医師の診断から発達の状態を把握し、それを保護者や他の職員に伝える時発育・発達の状態を把握し、それを保護者や他の職員に伝えると共に、日常の保育に生かしている。	6	6	
2	その子の体調の些細な変化や異常に速やかに対応する為、日常的な体調や機嫌の状態をつかむようにしている。	8	4	
3	健康観察で子どもの健康状態をある程度判断する事ができる。	8	3	1
4	1人ひとりの体調をしっかりと把握し、食事の量や内容を変えるなどの配慮をしている。	7	5	
5	睡眠中の子どもの顔色、呼吸状態を観察するなど、SIDS等への予防に努めている。	12		
6	食物アレルギー等の子どもに対して、医師の指導のもと、適切な対応をしている。	11	1	
7	日頃から虐待の早期発見を心がけ、虐待が疑われる場合には園長に報告し防止策を考える。	10	2	
8	棚やピアノの転倒防止、その他事故が起こらないよう保育室内外の安全点検を毎日行っている。	6	6	
9	地震等の災害や火災に備え、積極的に避難訓練に参加し、非常災害時に何をするか理解している。	8	4	
10	登降園時の事故について、保護者が何を注意するか、自分で説明する事が出来る。	5	4	2
11	明らかに危険な行動にははっきりとした言葉で制止している。	10	2	
12	不審者が侵入した場合に備え、子どもの安全を確保する為の対応策を日頃から心がけ、職員間で話合っている。	7	5	

#### 4.保護者・地域社会・関係機関との連携

1	園と家庭での様子を伝え合う中、子どもの育ちを保護者と共に考え、喜び合うことが出来る。	11	1	
2	その日の健康状態や興味を持った遊びなど、必要に応じてお迎え時に保護者に丁寧に伝えるように努めている。	11	1	
3	保護者から突然、お迎えが遅くなると連絡があった時も、快く対応するよう努めている。	12		
4	保護者が育児の悩みや心配を話したくなり、一緒に考えてくれる存在だと思えるよう、すすんで対話をしている。	9	3	
5	例えば自分の保育に批判的な保護者であっても、対立せず受容し意見や要求を聞こうとする姿勢がもてる。	9	3	
6	保育に関する保護者の考えや提案を積極的に聞き、保育の流れの中で適切と思うものは、園長等と話し合った上で、受け入れるよう努めている。	8	4	
7	連絡帳を保護者がその内容をよく理解でき、楽しみにするような書き方をしている。	7	5	
8	保育者同士が相談相手になれるよう、お互いをよく知り合う機会を多く設けるようにしている。	5	5	2
9	保育園が地域の中学・高校の生徒と交流したり、実習生を受け入れる時、面倒がらず指導する事が出来る。	8	4	
10	散歩や行事等で、子どもたちが地域の人々と触れ合う機会をもつようにすると共に、気持ちよく挨拶を交わしている。	11	1	
11	地元の公共機関を利用し地域の人に可愛がられて、子どもたちが豊富な社会体験をえられるようにしている。	5	5	2
12	公園などの公共の場を使用した後は、子どもたちと一緒に清掃するなど、気を配っている。	6	4	2
13	言葉が通じない外国人に、尻込みせず身振り手振りで対応できる。	6	3	3

#### 5.地域の子育て支援

1	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法の全てが、地域の子育て支援に繋がると自覚している。	7	4	1
2	保育園には地域の子育て支援という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている。	6	5	1
3	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している。	10	1	1

#### 6.保育士としての資質向上（研修・研究活動）

1	保育士としての責務と誇りを自覚し、人間性と専門性の向上に努めている。	5	6	1
2	自分の保育を振り返り、問題点や課題を見つけることが出来る。	5	7	
3	自分の保育に対する同僚や上司からの批評や意見を、感情的にならず謙虚に聞き、時に反省する事が出来る。	6	6	
4	保育現場で生じた疑問や悩みを、同僚や上司に分かるように説明する事が出来る。	5	4	3
5	その日の子ども一人ひとりの活動や姿を、しっかり記録にとどめることが出来る。	6	6	
6	保育の悩みや疑問を解決する為、研究・専門書を見つけ、そこから学ぶことが出来る。	6	5	1
7	他のクラスの保育について、疑問・感想・意見をお互いの向上の為に言葉に配慮しながら、素直に述べる事が出来る。	3	6	3
8	研修で得た内容・成果は園の職員に分かるように丁寧に説明し、意見交換をする為に役立てている。	4	5	3
9	研修会の機会があれば、自費でも参加したいと思う。	3	8	1
10	自身の保育実践について、園長はじめ他の職員が把握できる保育日誌等の記録が書けている。	4	6	2

不適切保育と言われるようになり、その部分については保育者も今までより更に気をつけて意識していることがこの自己評価表からも確認する事が出来る。年度末には外部講師を招き、不適切保育についての研修を行った。この園にとっての適切な保育について考えるきっかけとしていく。

反面、自身の日々の保育実践の振り返りや、チームで保育することを考え、他保育者と意見交換をすることがまだまだ積極的に行われていないことが確認できる内容となっている。

「対話する保育」という目標を掲げているが今年度は活発に職員間の話し合いがまだ難しい状況が見えてきた。

次年度もこの目標で保育を実践していく。

職員間の意思疎通が中々進まない為に、互いの保育を理解することが出来ず悩んでいることもあるので、主任保育士をはじめとしてリーダーが中心となり対話の場を提供していくことが必要だ。その中で互いの保育を肯定し合いながら、必要な確認や話し合いは適宜行えるようになって行くことを目指す。

環境設定については、まだまだ課題が残る。自然物との関わり合いだけでなく、保育室内の環境設定も見直しが必要な状況が見える。

行事への取組み方、捉え方が職員により差があることが見えてくる。この園が考える行事のあり方や、目指すところを明確にしていくことで、子どもたちも生活の中で無理なく取組楽しめる保育の実践を考えていく。

保育の質の向上が重要だと言われるようになり、その為には一人ひとりが高い専門性と豊かな資質を持つことが重要です。また保育はひとりでは出来ません。チームとして職員が連携しそれぞれの立場から意見の交換を行うことで、自分の保育の振り返り・点検をする事が出来ます。「計画を立て、実践し、見直す」この作業の繰り返しで、明日の保育の方向性が見直すことが出来ます。より良い保育の提供の為に、自己評価に取り組んで行きましょう。